

研究課題名	子宮平滑筋腫の自然縮小に関する臨床的検討
研究の意義・目的	<p>子宮筋腫は閉経により女性ホルモンの分泌が消失すると一般的には縮小しますが、閉経後も10年あるいは20年経過しても縮小傾向を示さない子宮筋腫の存在もまれではありません。長期間にわたり閉経後の子宮筋腫のサイズの変化について経過観察を行った研究はこれまでになく、本研究では閉経後10年経過するまで経過観察を受けた子宮筋腫の方を対象として、閉経後の子宮筋腫の縮小に関わる臨床的所見を解明することを目的としています。</p> <p>子宮筋腫の症状には過多月経や月経痛といった月経に伴う症状（月経随伴症状）と、腹部腫瘤感や頻尿・水腎症・便秘といった腫瘤による圧迫症状があります。月経随伴症状は閉経を迎えることにより消失するため閉経後は問題となりませんが、圧迫症状は閉経しても筋腫が縮小しなければその症状が続くこととなります。圧迫症状を有する方にとって閉経後に子宮筋腫が縮小するかどうかは重要な問題であり、また縮小するのであればその時期がなるべく早期であることが期待されます。閉経後、特に閉経後長期間に及び観察を行った子宮筋腫の解析を基に縮小に関わる臨床的因子の解明を行うことで、どのような子宮筋腫が長期的にみると縮小する傾向にあるのか、逆にどのような筋腫が閉経後長期間経過しても縮小しにくいのかを推定できれば、閉経期を迎えた圧迫症状で困っている方に対し子宮筋腫をどのようにすべきかを決定するうえで重要な情報を提供することが可能となります。</p>
研究を行う期間	「研究機関の長の研究実施許可日」～2025年3月31日
研究協力をお願いしたい方（対象者）	2012年8月までの間に自然閉経され、閉経後少なくとも10年間大阪公立大学医学部附属病院女性診療科での経過観察を受け続けた、長径60mm以上160mm以下の子宮筋腫を有する方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	<p>診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。</p> <p>診療情報等：診療録データ（年齢・初経年齢・閉経年齢・Body Mass Index・分娩回数・MRI画像所見）</p> <p>超音波検査データ（筋腫長径・筋腫数・筋腫部位）</p>
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪公立大学医学部附属病院女性診療科のみで行い、他の機関に情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪公立大学医学部附属病院女性診療科のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪公立大学大学院医学研究科 女性病態医学 研究責任者：角俊幸
本研究の利益相反	<p>利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。</p> <p>本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。</p>
研究に協力をしたくない	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても診療に関する不利益等を受けることはありません。

場合	
連絡先	大阪公立大学大学院医学研究科 女性病態医学 (担当者氏名) 大上 健太 電話番号：(06) 6645-3862 メールアドレス：gr-med-obandg@omu.ac.jp